

松下幸之助記念志財団 研究助成
研究報告

【氏名】 稲岡希実子

【所属】 (助成決定時) 聖路加国際大学大学院 看護学研究科 博士課程後期

【研究題目】

インドネシアの妊娠中の女性の家庭内受動喫煙を予防する、コミック教材を用いた介入効果の検証：ランダム化比較試験

【研究の目的】 (400字程度)

妊娠中の女性の受動喫煙が、早産、周産期のうつ、低出生体重児、先天性奇形、死産等、妊娠中の女性や胎児へ悪影響を与える事は先行研究で明らかになっている。更に、在胎中に受動喫煙を受けた胎児は、出生後に喘息や生活習慣病にかかるリスクが高まる事も証明されている。

世界の妊娠中の女性の約7割以上が受動喫煙を受けていると報告されており、受動喫煙をしている妊娠中の女性の約7割は家庭内で起こっている事が確認されている。インドネシアの北スラウェシ州のトモホン市で2017年に行われた横断研究では、妊娠中の女性の約7割が家庭内で受動喫煙の暴露がある事が確認され、子どもの出生体重は受動喫煙の暴露がない妊娠中の女性と比較して低いことが明らかとなった。

本研究は、妊娠中の女性の受動喫煙率の低下をめざし、インドネシア語で作成されたコミック教材を用いて妊娠中の女性の家庭内受動喫煙予防に関する介入効果を検証することを目的としている。

【研究の内容・方法】 (800字程度)

1. 研究デザイン:ランダム化比較試験
2. 対象とその選択基準:インドネシアのトモホン市在住の18歳以上の婚姻しているカップルを対象とした。
 - (1) 妊娠中の女性の選択基準:①妊娠初期(妊娠12週未満)の女性、②非喫煙者(喫煙経験がない)、③夫からの受動喫煙を受けている、④結婚している
 - (2) 妊娠中の女性の夫の選択基準:①妻の妊娠する2ヶ月前からもしくは、妊娠中に喫煙している、②1週間に最低6本はタバコを吸っている、③妻と一緒に住んでいる
3. 除外基準:①妊娠中期以降の妊娠中の女性とその夫、②妊娠中の女性が、疾患を持っている・妊娠糖尿病・妊娠高血圧症・精神疾患にかかっているハイリスク妊婦である
4. 対象数:286のカップル(140カップルが介入群、146カップルが比較群)
5. 施設と対象者のリクルート方法:
 - ①施設:インドネシアのトモホン市で、妊娠中の女性が通う保健センターおよび保健ポスト
トモホン市:保健センター(7施設)と保健ポスト(34施設)
 - ②対象者のリクルート方法:聖路加国際大学 研究倫理審査委員会承認後(2019年1月24日:18-A078)インドネシアの研究助手がトモホン市の保健センターと保健ポストに1回目の妊婦健診を受診している妊娠初期の女性の中で研究対象者として基準を満たしている妊婦をその場で教えてもらった。
6. 評価項目:
 - ①主要評価項目:妊娠中の女性に対しては、受動喫煙を避ける行動に関する質問(19項目)、パートナーの家での喫煙行動に関する質問(9項目)。妊娠中の女性の夫に対しては、家での喫煙行動に関する質問(9項目)、妊娠中の妻の受動喫煙予防行動に関する質問(3項目)を合わせて評価した。
 - ②副次的評価項目:妊娠中の女性に対しては、受動喫煙に関する知識(8項目)、ヘルスビリーフと自己効力感に関する質問(38項目)。妊娠中の女性の夫に対しては、受動喫煙に関する知識(8項目)、ヘルスビリーフと自己効力感に関する質問(32項目)

【結論・考察】（400字程度）

本研究では、140 カップルを介入群へ、146 カップルを比較群へ割り付けた。介入から3か月後、介入群の110 カップルと比較群の104 カップルの自己評価データを分析した。

その結果、介入群に属している妊娠している女性の受動喫煙予防行動に有意な差が得られた：妊娠している女性はたばこの煙から距離を取った（MD = 0.19, 95%CI = [0.01 - 0.37]）、公共交通機関の中で、禁煙シートをリクエストした（MD = 0.24, 95%CI = [0.05 - 0.43]）、屋外でたばこの煙から離れた（MD = 0.25, 95%CI = [0.08 - 0.41]）、たばこの煙があるところにはいない（MD = 0.02, 95%CI = [0.03 - 0.39]）と報告した。

夫の喫煙行動については、介入群に属する夫の中でベースラインでは禁煙予定がなかった夫が54.0%いたが、その値が介入後3か月後には29.0%まで減少した（MD = 0.24, 95%CI = [0.02-0.47]）。介入群に属す妊娠している女性は、夫は煙草を吸うときに妻から離れた（MD = 0.24, 95%CI = [0.02-0.46]）、部屋の扉を閉めて外でたばこを吸った（MD = 0.38, 95%CI = [0.17-0.59]）、禁煙を予定している夫の数に違いがみられた（MD = 0.30, 95%CI = [0.08-0.51]）と報告した。ヘルスビリーフモデルを元に作成したコミック教材とリマインダーは、潜在している知識、ヘルスビリーフ、自己効力感を通していくつかの行動変容のきっかけによって受動喫煙予防に効果が発揮された。